

Medical Salon NANAŌ

メデイカルサロン — な な お —

第
80号



目次

表紙	p.1
新会長挨拶	p.2
新しい仲間①～③	p.3～5
新型コロナウイルス感染症にどう対応したか ～2021年を振り返って～	p.6～10
お元気ですか？	p.11
フレイルドック	p.12
コロナ病棟、PCR検査について	p.13
これだけは言わせて かかりつけ医と主治医	p.14
ななお紫蘭の会 活動報告/ あじさい会 活動報告	p.15
七尾看護専門学校だより	p.16
医師会の窓	p.17
副会長のコーナー／短信／編集後記	p.18

2022年4月21日、東京オリンピックの女子バスケットボールで銀メダルを獲得された赤穂ひまわり選手（七尾市出身）をお招きして、第18回スポーツ医科学研究会を開催しました（七尾市体育協会と七尾市医師会の共催）。当日は、軽快なトークショーに続き、ミニゲーム、抽選会、サイン会など市内のミニバスチームや中学校バスケット部の子どもたちとの交流も行いました。まさに、ひまわりのような笑顔が印象的で、2年後のパリ五輪での大活躍も期待しています。

写真・文 佐原博之（石川県医師会理事）



「古希迎え 終活直前 医師会長」

七尾市医師会 会長 安田紀久雄



数年前からことあるごとに「駄洒落的」川柳を読んできました。自分では悦に入っているのですが、あまり聴衆受けがしないのが玉に瑕です。

この度、5月30日をもって、七尾市医師会の会長に就任することになりました。まさに青天の霹靂とはこのことでしょう。まったく思ってもいなかった事態となり、しばらくは自分自身戸惑いのさなかにおりました。

十数年前に鹿島郡医師会の所属であったわたしは七尾市医師会と合併後、当時の桜井会長のもとで理事として、三林会長になってから数年間、副会長としてお仕えしました。

気楽な立場での存在から、はや十数年、いよいよ古希となり、そろそろ終活をしなければという気持ちになっていました。(たまたま、中能登町の在宅連携グループである「あじさい会」ではここ数年、ACP＝人生会議についての研修会を数多く開催してきて、自分自身でもそろそろ終活をはじめなければ、と思っていました。)

終活の手始めとして、いろんなサイトにおけるIDとパスワードをまとめて記録して息子に伝えました。次は、不要なものを断捨離するか、はたまたエンディングノートを書こうか、などと考えていた矢先でした。このタイミングで、なんと医師会長になるとは……

そこで、冒頭の川柳となったわけです。(前置きが長いですね)

会長をお引き受けするまでにはいろいろと葛藤がありました。いったん引き受けた以上は、なんとか格好をつけなければなりません。公約をかかげて選挙に臨んだわけでもなく、さて、どうしたものだろう……と思い、毎日思案していました。

そこで、考えあぐねた結果、会長って一人ではなにもできないことに気づきました。医師会活動って皆で知恵をだしあい、工夫しながらやるもので、会長って音頭をとるだけの存在なんだ、と思い到りました。そこで、会長になった際に、できることをいくつかに絞って、それを役員や会員の皆様と協力してやってゆこう、やるからには「楽しみながら」「明るく」「生き生きと」やってゆこう、と決心したのでした。

現在、世の中に目を向けると、さまざまな「異常事態」が目や耳に入ってきます。新型コロナウイルス感染、ロシアのウクライナ侵攻、各地での地震、

巨大台風や洪水、干ばつ、少子高齢化に代表される人口問題、医療面では高齢者の負担増、医療費削減をめざす診療報酬改定、などなど。どれもこれも人類の将来における存在への挑戦とも捉えられます。ただ、これらを何とかしたい、しなければ、と思うものの、自分ではなにもできない無力感にさいなまれ、ささやかな寄付をすることで、お茶を濁してしまっていることを情けなく思う日々です。

このようななかで、医師会長になってなにをすべきなのだろうか、と悩みつつも、結局大きなことはできず、前述のごとく、目の前の問題に対して皆で協力してできることをする、という結論にいたりました。そして、以下のことをテーマとしてあげました。

- ①新型コロナウイルス感染対策には、従来どおり、行政と協力しながら積極的に対応してゆく。コロナワクチンへの参加はもちろん、高齢者施設でのコロナ発生時にも関わってゆくようにする。
- ②「危機管理部」をたちあげ、地震や災害時の七尾市医師会の活動をマニュアル化する。自らの医師会が被災した際の連携や対応のみならず、他の地区での災害時にどのように協力してゆけるか、ということについても早急に議論が必要です。今後発生するであろう新たな感染症に対する危機管理も当然含まれてきます。
- ③会長業務については他の役員の方たちと分担して、会長の負担を軽減する。会長業務が多すぎて自院の患者さんに迷惑をかけては本末転倒、誰も会長になろうとしないでしょう。「医師会長 ぼくもわたしも してみたい」というような会長職にしたいものです。

この3点にテーマを絞りました。さて、どこまでできますでしょうか？ 乞ご期待ですね。皆様、あらためてよろしくお願ひ申し上げます。

また、最後に、いままで長らく医師会を支えてきていただいた歴代の会長の方々、そして役員や会員の皆様に厚く感謝申し上げるとともに、これからもご指導いただけますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



2022年4月1日にねがみみらいクリニックを開業しました根上です。万行の岡田胃腸科外科クリニックを継承し開業させていただきました。

私は東海大学医学部医学科を卒業後、金沢大学旧第3内科にて研修を行い、一番最初の医療機関が恵寿総合病院でした。その後、妊娠、出産を経て、再び恵寿総合病院に戻り、約10年間健診センターにて、人間ドック・健康診断を主に行っていました。また、子育てを行いながらの勤務で、多くの先輩や同僚の先生方に加え、コメディカルの方々や、地域の方々にも助けていただきました。人情味に溢れ、海の幸、山の幸に恵まれ、美しく、穏やかな海に恵まれたこの地は私にとってはかけがえのない土地です。昨年までは埼玉県の健診センターに努めていましたが、七尾に戻りたいとい

う思いがある中で岡田先生のクリニック継承のお話を伺い、開業に至りました。一般内科をはじめとして睡眠時無呼吸症候群や禁煙外来、女性外来、漢方なども取り込みながら少しでも地域の健康に寄与したいと考えています。

七尾を離れてから所属した人間ドック健康診断の専門講座「東海大学基盤診療学健康管理学講座」などにて、10年前より知識を広げ、深めて戻ることができました。予防医学を学んでいくうちに、もっと健康、もっと元気に人が生きることの大切さを身に染みて感じました。自分の理想の体力や容姿を保ちながら生きがいを持って生きる、ウェルビーイングをサポートすることが現在の私の目標です。

ウェルビーイングは湯治と繋がるものがあると考えています。恵寿総合病院に勤めていた際、和倉温泉とタイアップしてメディカルツーリズムを取り入れようと神野正博先生がご尽力なされ、そのお手伝いとして、温泉気候物理医学会に入り正しい温泉の入り方、温泉療法、世界の温浴方法などを学び、医学側の知識と、温泉旅館側の知識や知恵を合わせて魅力のある温泉街を作るために和倉温泉の方々や湯番頭制度の勉強会なども行わせていただきました。当然温泉にも効能効果があり、七尾の綺麗な海と山の空気や地形などと相乗効果を示します。そこにウェルビーイングを意識した医学を取り込むことで、地域貢献できると嬉しいと考えています。

素敵な「七尾」の「みらい」をたくさんの皆様とともに作り出して行けるといいな、、、と考えます。どうぞよろしく願いいたします。





七尾市国分町のみばやし眼科を継承し、2022年5月に新たに「ふき眼科クリニック」を開院する清水ふきと申します。三林先生のご主人と私の父が従兄弟というご縁もあり、このような貴重な機会を頂けたことに深く感謝申し上げます。三林先生が27年間の長きに渡り診療を続けてこられた場所で新たにクリニックを始めることとなり、身の引き締まる思いです。

「新しい仲間」というタイトルですので、恥ずかしながら自己紹介をさせて頂きたいと思います。私は生まれも育ちも七尾市内で、小丸山小学校、御祓中学、七尾高校と進学しました。その後は山口大学医学部に入学し、卒業と同時に金沢医療センターで初期研修を開始しました。2年間の研修終了後、金沢大学眼科に後期研修医として入局、厚生連高岡病院や小松のやわたメディカルセンターで働いていた時期もありますが、眼科医としての大部分を金沢大学で勤務してまいりました。勤務医時代は残念ながら能登の方にご縁がなく、今回高校を卒業して以来の七尾ということもあり、少し不思議な気持ちです。医学部に入ったときは眼科医になるとは全く思っていなかったですし、眼科に入局したときはまさか開業するとは考えてもみませんでした。周囲からの影響や、自分の考え方の変化、様々な出会いなどがあり、ここにたどり着いたという感じですが、大学病院での診療はどうしても急患や重症の方が多く、症状が改善すればかかりつけ医に戻って頂くため、もっと患者さんと長く関わりたいという思いが

ずっとありました。今後は気軽に相談できる「街の目医者さん」として、地域の方に長く愛されるクリニックを目指していきたいです。大学では一般眼科はもちろん、斜視・弱視を中心に小児を多く担当していました。小児は検査や診療に手間と時間がかかるため、クリニックで診療するのは難しい部分もあるかとは思いますが、七尾の子供達の「目の健康」を守るために少しでもお役に立てればと考えています。また、しばらくは大学の外来も継続するため、大学とも密に連携しながら診療を行う予定です。

クリニックの顔となる名称を決める際には、とても迷いました。七尾市内には歴史ある「清水眼科医院」があり、混乱を避けるため名字を使わないで名称を決めるのが難しかったです。下の名前をつけるか、全く関係ない草花の名前や地名などにするか…？下の名前が珍しいためクリニックの名称としては違和感があるのではないかと気がかりでした。色々悩みましたが、普段から「ふき先生」と呼ばれることも多く、愛着があり呼びやすい名前でもあるので、最終的には、「ふき眼科クリニック」としました。ただ、未だに口に出すのが恥ずかしく、出来るだけ言わずに済ませたいと言うのが本心です。いつか慣れて平気になると良いのですが…。

コロナ禍以前は、旅行が趣味で年に1回は海外旅行に行っていたのですが、ここ2年以上は県内から一歩も出ていません。ヨーロッパを中心に20カ国以上は行ったと思います。日本と全く違う建物や美術館、料理といった物にも興味がありますが、言葉が分からず、知り合いも一人もない孤独感？が、逆に自由な感じがして好きです。今は、次に行くならどこの国かを想像することで我慢しています。ただ、この二年間は家の猫(ブリティッシュショートヘア4歳)とべったり一緒だったので、旅行で長期間離れられるか心配です(猫の方は平気かもしれませんが)。いずれにしても、早く自由に旅行や人と会うことが出来るようになることを切に願っています。

以上、とりとめのない内容となってしまいましたが、自己紹介をさせて頂きました。少しでも早くクリニックの運営に慣れ、地域医療に貢献できるよう努力したいと思いますので、よろしくお願い致します。





新しい仲間 ③

恵寿総合病院
石川県七尾市富岡町94番地
外科 能登 正浩



恵寿総合病院の夜明け (2022/4/2 撮影)



夜明け前の恵寿総合病院 (2022/4/4 撮影)

4月より恵寿総合病院に赴任しました能登正浩と申します。

名前は能登ですが、愛知県海部郡の弥富町というところで生まれ名古屋市で育ちました。高校3年の時に、親元を離れて県外の大学に行きたいと思い、金沢の城下町の雪景色やお城の中にある大学の雰囲気惹かれ志望、1年浪人して金沢大学医学部に入学しました。そのまま地元には帰らず、1998年より金沢大学旧第二外科に入局しました。北陸内の関連病院をいくつか回り、16年前に一度恵寿総合病院で1年間勤務しました。その後、白山市にある公立松任石川中央病院で15年間勤務し、そして今年の4月より再び恵寿総合病院で外科科長として勤務することになりました。実に16年ぶりに『能登』が能登に帰ってきたということになります。親に名前の由来を聞いたところ特に北陸と関連はないとのことでしたが、引き寄せられるようにこの地にもどってきたことより何か不思議な縁を感じています。

部活動は硬式テニスをしていました。医師になってからしばらくはしていませんでしたが、前病院内にあるテニス同好会に加わり、週一で趣味程度に練習していました。石川県の医療人対抗テニス大会にも

参加していましたが、コロナの影響でここ数年は開催されておらず残念な思いです。今後も何らかの形で続けていきたいなと思っています。

その他の趣味として2年前よりハーモニカを始めました。娘が小さいころよりピアノを習っていて、大学生になった今も趣味として楽しそうに弾いているのを見て、なにか気軽にできる楽器はないかと探していました。管楽器の音色が割と好みで本当はトランペットやサクソなどをやってみたかったのですが、まったく手軽ではないので断念。You tubeなどでいろいろ探していたところ、『クロマチックハーモニカ』という半音も出せるハーモニカが気になりました。この年で楽器を始めることに抵抗がありかなり迷いましたが、値段もそれほど高くなくどこでも手軽に演奏できることが決め手となり思い切って購入したというのがはじめた経緯です。ピアノやギターなどに比べ比較的簡単な部類の楽器だと思いますが、楽譜もろくに読めない私にとっては四苦八苦しながらやっています。まだそれほど上手には吹けません、少しずつ上達するのが楽しくて結構飽きずに吹いています。いつか皆さんの前で披露できる日が来ることを夢見て、気晴らしとしてこれからも続けていきたいなと思っています。

年を取るにつれ、休日などに妻といろいろな景色のよいところに行くことが増えました。以前はあまり興味なかったのですが、美しい山や海の景色や桜や紅葉などをみると心が落ち着いて幸せを感じるようになりました。4月1日に恵寿総合病院に赴任しその日は早くに寝てしまい、翌朝早くに目が覚めたので散歩をしました。病院に向かう橋のあたりでちょうど運よく日の出を見ることができました。その景色がとても美しく心を奪われました。16年前に1年間住んでいた時には全く見えていない景色でした。その2日後にも同じく早く目覚めたので橋に向かうと、今度は夜明け前でしたがとても幻想的な光景が広がっていました。このような美しい自然に囲まれた病院で働けることをとてもうれしく感じました。

これまでの恵寿総合病院の外科に関して感じたことは、とても高度な手術や治療をしているなどということです。ただその反面やや合併症が多く、また入院期間も少し長い印象を受けました。当面の目標として、患者さんがしっかりと治ることを目指すのは当然として、より安全で安心できる地に足がしっかりと着いた治療を提供していけるよう努力していきたいと思っています。七尾市医師会の先生方や地域の患者さんからより信頼を得られるよう日々研鑽を積みながら診療に邁進しますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症にどう対応したか ～この1年を振り返って～

七尾市医師会 前会長 奥村義治



2020年に流行が始まった新型コロナウイルス感染症ですが、2022年6月初旬の時点でまだ第6波の流行が続いており、なかなか落ち着かない状況にあります。ただ1世紀前にパンデミックをもたらしたスペイン風邪の時と異なるのは、ワクチンという防御手段を1年にも満たない短期間に手に入れた事であり、このワクチンがコロナ感染による死亡数の減少や重症化の予防に大きく寄与した事は間違いのない事実です。一方で今回使用されたメッセンジャーRNAワクチンは、ウイルスのタンパク質を作るもとなる遺伝情報の一部を注射し、この情報をもとに人体内でウイルスのタンパク質の一部が作られ、それに対する抗体ができる、という新たな機序のワクチンであり、副反応に関しては未知であったことから既存のワクチン以上に接種後の副反応への注意が求められました。

当地での一般住民への接種は地域の医療機関における個別接種と集団接種、市町が特設会場を設けて行う集団接種の3本立てで行う事となりましたが、特設会場での集団接種においては個別接種とは異なって膨大な準備が必要であり、安全で確実な接種体制を確保するために様々な業種、職種の方々との連携をとりました。接種とは直接関わっていないが重要となる業務としては、ワクチン接種の予約や接種に用いるワクチンの保存管理・配送が挙げられ、前者は旅行会社、後者は医薬品卸会社の当地域支店に担当して頂きました。

特設接種会場内での運営は接種主体である市町が中心となり、私共の医師会、薬剤師会、看護協会からそれぞれの専門職が出務して運営に協力しました。

当地で2021年5月上旬に始まった65歳以上高齢者への優先初回接種（1回目、2回目接種）ですが、当初医師は一人で問診とワクチン接種係の二役を担っていました。しかし当時の菅首相が「1日100万回接種」の目標を掲げて接種の加速を求めたことにより、途中からは接種係を看護協会（病院）の看護師にお願いして接種規模を拡大しました。更には10月からは歯科医師会に協力をお願いして負担の大きい接種係の一部を担って頂きました。接種規模は大きくなりましたが事業実施主体者の市町および協力する医療者共々、事故のない安全で確実な接種が最優先、という共通認識を持って運営にあたったのは言うまでもありません。

その後ファイザー製ワクチンの対象年齢が12

歳～17歳に拡大される、という変化はありましたが、初回接種は順調に進み、特設会場の開設は2021年10月上旬で一旦終了となりました。

一方、様々な研究によって本ワクチンの発症予防効果や重症化予防効果は時間の経過と共に減弱する事が明らかとなって、政府は初回接種から5ヶ月以上経過した人への3回目接種（追加接種）を努力義務としました。これに伴い、この地域では2022年1月下旬より再び特設の集団接種会場を開設して初回接種と同様の体制で3回目接種に臨むことになり、各医療系の団体からも会場に出務して頂きました。3回目接種は冬季にかかることとなり体育館などの広い空間の接種会場では暖をいかに取るかご苦労されたと伺っております。また3回目ではこれまで用いてきたファイザー製ワクチンが不足したため、モデルナ製ワクチンを使用する事となりましたが、1バイアル当たり採取できる本数やワクチンの調整方法、管理方法が全く異なるため、細心の注意が必要でした。

この3回目接種も順調に進んで特設会場の開設は5月上旬で終了し、現在は7月から始まろうとしている4回目接種へ向けての準備中です。

なお本年1年に承認された5歳～11歳の小児用新型コロナワクチンの接種は努力義務とはなりませんでした。当地域の小児科医に全面的に協力して頂き、本年2月から各小児科医療機関で希望者への個別接種を実施しております。

昨年5月から開設しました特設会場での集団接種には数多くの医療者、市町の職員らが出務して運営にあたりましたが、その開設回数や出務状況について各市町から資料を提供していただきましたので別表（七尾市版）（中能登版）にお示しします。また今回、ワクチン接種事業に直接関わった市町の担当者やワクチンの保存管理・配送に当たって頂いた薬卸業の担当者からそれぞれのお立場でのご苦労の一端を寄稿していただきました。

これまでこの地域で行政と地域の医療関連団体が手を合わせてひとつの事業を大々的かつ長期にわたって行うという事はなかったと思われ、今後の有事の際には今回の経験が生きるのではないかと考えております。この事業にご協力を頂きました関係者各位にこの場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

コロナワクチン集団接種特設会場の開設および出務状況（七尾市）

【1・2回目接種】

日程	会場	日数	会場数								出務数（延べ数）							
			水曜日		木曜日		土曜日		日曜日		夜間	計	医師	クリニック 看護師	薬剤師	看護協会 看護師	歯科 医師	計
			PM	PM	AM	PM	AM	PM										
令和3年5月8日(土)～ 令和3年9月26日(日)	矢田郷地区 コミュニティセンター	43日	2	4	4	13	19	16	4	62	136	167	88	326	0	717		
	中島文化センター	6日	0	0	0	6	0	0	0	6	12	21	12	17	0	62		
令和3年9月30日(木)～ 令和3年10月31日(日)	パトリア	9日	0	0	0	3	4	1	2	10	20	20	10	66	3	119		
合計		58日	2	4	4	22	23	17	6	78	168	208	110	409	3	898		

【3回目接種】

日程	会場	日数	会場数								出務数（延べ数）							
			水曜日		木曜日		土曜日		日曜日		夜間	計	医師	クリニック 看護師	薬剤師	看護協会 看護師	歯科 医師	計
			PM	PM	AM	PM	AM	PM										
令和4年1月29日(土)～ 令和4年5月1日(日)	矢田郷地区 コミュニティセンター	20日	0	0	0	10	8	6	2	26	52	52	26	161	7	298		
	中島文化センター	2日	0	0	1	2	0	0	0	3	6	6	2	10	0	24		
合計		22日	0	0	1	12	8	6	2	29	58	58	28	171	7	322		

【全日程】

日程	会場	日数	会場数								出務数（延べ数）							
			水曜日		木曜日		土曜日		日曜日		夜間	計	医師	クリニック 看護師	薬剤師	看護協会 看護師	歯科 医師	計
			PM	PM	AM	PM	AM	PM										
合計〔1・2回目+3回目接種〕		80日	2	4	5	34	31	23	8	107	226	266	138	580	10	1,220		

※R3.8.1から看護師の接種が開始
 ※R3.10.9から歯科医師の接種が開始

〔会場数は半日を1単位（1ヶ所）として計算〕

コロナワクチン集団接種特設会場の開設および出務状況（中能登町）

【1・2回目接種】

日程	会場	日数	会場数						出務数（延べ数）							
			水曜日		土曜日		日曜日		夜間	計	医師	クリニック 看護師	薬剤師	看護協会 看護師	歯科 医師	計
			PM	PM	AM	PM	AM	PM								
令和3年5月9日(日)～ 令和3年8月29日(日)	ラビア鹿島	30日	5	6	17	8	2	38	76	74	59	194	0	403		
令和3年9月4日(土)～ 令和3年10月9日(土)	鹿西体育館	10日	0	6	4	4	2	16	32	31	16	121	0	200		
合計		40日	5	12	21	12	4	54	108	105	75	315	0	603		

【3回目接種】

日程	会場	日数	会場数						出務数（延べ数）							
			水曜日		土曜日		日曜日		夜間	計	医師	クリニック 看護師	薬剤師	看護協会 看護師	歯科 医師	計
			PM	PM	AM	PM	AM	PM								
令和4年1月30日(日)～ 令和4年4月30日(土)	鹿西体育館	16日	0	7	9	5	0	21	42	42	21	88	7	200		
合計		16日	0	7	9	5	0	21	42	42	21	88	7	200		

【全日程】

日程	会場	日数	会場数						出務数（延べ数）							
			水曜日		土曜日		日曜日		夜間	計	医師	クリニック 看護師	薬剤師	看護協会 看護師	歯科 医師	計
			PM	PM	AM	PM	AM	PM								
合計〔1・2回目+3回目接種〕		56日	5	19	30	17	4	75	150	147	96	403	7	803		

〔会場数は半日を1単位（1ヶ所）として計算〕

～七尾市健康推進課担当者より～

七尾市新型コロナワクチン接種体制について

七尾市医師会の皆様におかれましては、市の保健事業へのご協力をはじめ、日ごろの診療、新型コロナウイルス感染症の感染防止を踏まえながらの対応にご尽力いただいておりますことに対して、心から敬意と感謝を申し上げます。

令和2年（2020年）12月9日の国の通知にて臨時の予防接種の対象疾病に、新型コロナウイルス感染症が追加され、七尾市予防接種体制の構築に向け奥村会長はじめ、医師会員の皆様との協議を開始しました。

国からの日々更新される情報の中、新型コロナワクチンの接種体制の調整等について、診療後のお疲れの中にも関わらず、協議に協議を重ねていただき、ありがとうございます。

奥村会長をはじめ先生方からのご助言、集団接種会場における医師、看護師の配置協力により、65歳以上の高齢者の接種体制（1回、2回接種）が整い、令和3年5月8日から高齢者の集団予防接種のスタートを迎えられました。また、妊婦や小児、3回目の追加接種など国の拡がりに合わせ、それらに対応するため、昨年度末までに計92回もの会を重ね

ね、体制を整えることができました。

医療機関での接種につきましては、国からのワクチン供給の変動による接種希望者の受入れ人数の調整、また新型コロナウイルス感染症を含む日頃の診療の対応の中で、30医療機関、延べ103,687人（令和4年4月30日現在）への接種のご協力をいただきありがとうございました。

特設会場では、80日間、107会場で七尾市医師会の医師226名、医師会看護師266名、看護協会看護師580名、薬剤師138名、また、歯科医師会研修会を踏まえ、令和3年10月9日からは、七尾市歯科医師会の歯科医師10名のご協力もいただき、接種の促進を図ってきました。期間中は救急搬送までに至ることなく、その他大きなトラブルもなく、無事5月1日（日）をもって3回目接種の特設会場を一旦終了することができました。重ねて感謝申し上げます。

現在、4回目接種の実施に向けて、準備を進めているところですが、医師会の皆様には、今後も引き続きご助言、ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、七尾市医師会の益々のご発展と皆様方のご活躍をご祈念申し上げ、挨拶といたします。

令和3年4月1日現在 年齢別人口表（市民課）より		1回目		2回目		3回目	
		接種済数	接種率	接種済数	接種率	接種済数	接種率
12～17歳	2,991人	1,900人	63.5%	1,875人	62.7%	281人	9.4%
18歳以上	44,513人	39,834人	89.5%	39,633人	89.0%	29,941人	67.3%
合計（12歳以上）	47,504人	41,734人	87.9%	41,508人	87.4%	30,222人	63.6%

※各接種率の分母は令和3年4月1日現在年齢別人口表の数

～中能登町健康保険課担当者より～

感謝

スペイン風邪から100年、新型インフルエンザから10年となる平成31年2月に、新型インフルエンザ等の発生に備え、役場職員を対象に研修会を開催。元号が変わり、同年の令和元年11月には、首長参加型の対策本部設置訓練を実施。年が明け、令和2年1月、中国で新型コロナウイルスの感染が確認され、あっという間にパンデミックへ。発生した新型ウイルスがインフルエンザではなかったことから、ワクチン開発からのスタート。マスク不足、緊急事態宣言の発令、先の見えない生活へ。

急ピッチでワクチンが開発され、令和2年10月には、新型コロナウイルスワクチンの接種体制を確保するよう国から通知が届きました。医療体制を安定させ、人命を守り、安定した日常を取り戻すための国を挙げての大事業であり、身の引き締まる思いと共に、接種体制確保の見通しがたらず、責任の重さに身が震えたのを覚えています。藁をもすがる思いで奥村医師会長のもとを訪ね、ご協力をお願いしました。先生は、各会の代表者にご協力をお願いしてください。また、医師会総務会や役員会の先生方のご指導のもと、幾晩にもわたり、安全に接種するための協議を重ねました。医師会、医師会事務局、看護協会、薬剤師会、歯科医師会、地区担当薬剤師のみなさまのご理解とご協力を賜り、コールセ

ンターや集団接種会場スタッフのお力もお借りして、全精力を投入し4回目接種まで進んできました。

この間、通常の診療に加え、発熱者への対応、個別接種や週末の集団接種、施設接種、休日当番医、園医や学校医、連日に渡る会議など、先生方はゆっくり休める時間ありませんでした。奥村先生におかれましては、医師会の代表というお立場から、私共の相談も含め、あらゆる相談をお引き受けになられ、先生のお身体が心配でなりません。コロナ接種に携わる者が誰一人倒れることなく、かつ、安全に住民接種を終えることが目標であると自分に言い聞かせ、時にこの目標を声に出して接種業務を行ってきました。引き続き、目標の実現に向けて、関係のみなさまのお力をお借りしたいと思っています。

お世話になったみなさまお一人一人のお顔を思い浮かべますと、自然と涙が溢れてきます。「役場のみなさんも身体大丈夫？無理せんとね。」優しいお言葉に、どれだけ助けられたことかわかりません。言葉では言い尽くせないご恩と、この地域でコロナ接種のお仕事をご一緒させていただいたご縁に感謝し、ウィズ/ポストコロナ時代、そして人口減少時代の地域医療や保健福祉の安定のために、今後もより一層みなさまと力を合わせていきたいと考えています。

最後になりましたが、夜間や休日のお仕事が増えた分、働く者の身体を案じつつ、留守を預かり支え続けてくださっているご家族のみなさまに、この場をお借りして心よりお礼をお申し上げます。

～(株)明祥担当者より～

医薬卸のワクチンの配送と管理について

令和3年5月より七尾市の新型コロナワクチン（ファイザー社製、モデルナ社製）の配送をお手伝いさせていただいております明祥株式会社、支店長の細川稔と申します。当社には、過去より超低温状況（0℃以下）での医薬品の管理・移送経験がなく、社内の管理マニュアルが整備されていないまま七尾市健康推進課様より移送の相談を頂きました。準備に際して、まず超冷凍冷蔵庫を2台設置。設置に関しても、厚生労働省の設置基準を施工業者と十分話し込み実施いたしました。専用電源設置と設置場所の確保にて新型コロナワクチンの保管・管理スペースを作り出しました（令和4年1月よりモデルナ用超低温冷凍庫を設置）。また、停電時の緊急連絡の確立と非常電源切り替えのマニュアル、有事に対する社内手順の研修を数回重ね商品の管理を実施しております。保管に関しても、厚生労働省や医薬品卸売連合会の保管基準にて管理をしております。また、移送用冷凍BOXやアイスバッテリーの用意、耐熱用の手袋着用でのワクチンの保管作業、特に新型コロナワクチンは箱単位での包装品を配送するのではなく、1本単位での配送となるため、当社としてオリジナルで製作した「ワクチン移送用のバイアルフォルダ」を作成し、安全に新型コロナワクチンが移送できる様準備いたしました。指定日に市内医療機関へ配送し、医療機関様内でも納品されたワクチンの納品日或使用期限が分かる様工夫してまいりました。同様に接種用の針・シリンジや溶解液も当社で管理と移送準備をしております。当社で

はコロナ関連品を入荷時に1個単位でシステム入力し管理しております。ワクチン必要本数をFAXでいただき、それをもとに配送伝票を作成します。当社の商品管理課にてワクチン関連商品を必要数に応じて袋詰めし配送医療機関ごとにオリコン詰めを行います。週単位でちがいますが、配送させていただいている医療機関は遠方で能登島診療所様から市内23施設（集団接種特設会場2か所）へ配送し対応させていただいております。

私がお話をいただいて一番心配であったのはマンパワーの確保でありました。現在の労働には「働き方改革の推進」「残業時間」等の労働に対する制限の中で業務を実施しております。従来の仕事を業務時間内で終了するための人員で構成しているため、「新型コロナワクチンの管理と配送」という大事なご依頼をいただいて、本当にやりきることができるのか大変心配でした。また業務においても業務量の増加や煩雑化が予想されました。そのため業務と仕事内容の見直しや業務の分配、社員への「コロナワクチンの管理・移送」業務に対する重要性を周知し、なんとかワクチンの管理・配送体制を確立することが出来ていると考えております。

コロナ感染や重症化を最小限にとどめるためには、早い段階で多くの市民の方々に接種していただくことが有効手段であると考えております。今後も確かなワクチンを安全確実に配送させていただきます。6月以降も4回目の接種が始まろうとしております。市民の皆様には広くご接種いただき、コロナの感染防止に繋がればと考えております。

～(株)ファイネス担当者より～

新型コロナウイルスワクチン移送に携わって

今回の新型コロナウイルスワクチン移送については従来の医薬品流通スキームとは異なり、ワクチンの配分量を国と自治体が決定し、医療機関様に納入する仕組みとなりました。そして地域毎にワクチン流通を担当する医薬品卸業者が設定されファイネスもその任にあたりました。これは平時の医療機関様からの発注を受けての医薬品流通ではなく特別な流通体制であった為、いかに混乱を生じさせない様にするか気を使いました。また、今回は自治体、医療機関様、医薬品卸等の関係者間でワクチン配分などの情報伝達をする新たなシステム（Vaccination-system 略称：V-SYS）が構築され運用がなされました。

今回の新型コロナウイルスワクチン移送で特に苦労した事は、厳格な温度管理を施してワクチンを医療機関様にお届けすることでした。ファイザー製ワクチン保管温度は-75℃、モデルナ製ワクチンの保管温度は-20℃であり大変神経を使いました。

ファイネスとして従来からGDP基準に則り、温度管理には十分対応してきておりましたが、今回は更に高いレベルでデータに裏打ちされた高品質な保冷バッグ及び蓄冷材を多く準備して作業を行ってまいりま

した。現時点で問題なく医療機関様に移送させていただいております。

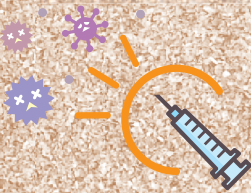
当初、新型コロナウイルスワクチン移送においては一般の運送業者の活用も検討されていたようですが、製品特性を理解している医薬品卸業者での運用は良かったのではないかと自負しております。

実際、昨秋厚生労働省から発出されました『医薬品産業ビジョン2021』では各政策領域における基本的な認識と課題4項目の中で初めて医薬品流通について商流、物流などの重要性が記載されました。緊急時の協働を見据えた平時からの備えとして供給不安時の流通スキーム検討、卸事業者のBCP策定検討なども項目にあがっております。

ファイネスは企業理念として情報提供や品質の保持、また安定供給なども含め社会貢献することを掲げております。理念の下、社員一人一人の強い使命感から会社一体となり取り組めたと思っております。今後も私共ファイネスは、地域に根差した医薬品卸として地域社会、医療機関様、患者様の為に活動していく所存です。

GDP：医薬品の適正流通基準

BCP：事業継続計画



お元気ですか？

七尾市医師会第11代会長 佐原 吉博先生の巻



本年1月10日、横山文男先生が逝去されました。

先生は「メディカルサロンななお (MSN)」の創刊以来の編集仲間であり、私にとって、何でも相談できる相棒でしたので、残念でなりません。

もう一人、創刊以来の編集仲間・櫻井秀明先生が、平成28年8月、小児科医院を閉じて金沢に移住されましたので、近年は横山先生と、医師会のことや、MSN、そして七星医会 (七尾高校出身の医師の会) のことなどを、折に触れて相談や、打合せをしてきましたので、誠に淋しい限りです。

私は、平成2年春、当時の飯田桂一会長から七尾市医師会報の編集を懇請された時、一人では荷が重いので、横山先生と櫻井先生と一緒に、了承を得ました。

横山先生は七尾高校の1年後輩、櫻井先生は、金沢大学医学部の邦楽部：都山流尺八の弟・弟子で、日頃から懇意にしていました。

ただ、3名とも冊子の編集の経験が無かったので、横山先生の同級生で、その道のプロの小林良子さんに、編集のイロハから教わりながら、スタートしました。

昭和22年8月に発足した戦後の七尾市医師会では、時の執行部が七尾市医師会報の発行を何回か試みて来ましたが、途中休刊し、延べ3年、第12号で止まっていました。

誰もが会報の発行が必要と思いながらも、診療の合間を縫っての会報編集は荷が重く、引き受け手のないまま日が経っていました。

そこで、新編集委員としては、会誌の発行は、無理をせず年3回とし、名前も新たに「メディカルサロンななお」と改めて、七尾市医師会の発展や医師会相互の親睦交流に加えて、市民との交流を目指し、行政、学校、各種団体にも配布することにしました。

こうしてスタートした素人集団でしたが、発行を重ねる毎に、編集もスムーズに行くようになって来ました。

そして、櫻井先生は誌面の企画構成、横山先生は行政や外部諸団体との交渉連携、私は全体の運営、会計と、資料集めを担当するようになり、市内の元会員宅から、金沢、輪島に、さらに、一番遠方は北海道江別市まで足を延ばして、貴重な資料を収集し、MSNの各号に、医師人物伝を掲載してき

ました。

一方、囲碁同好会やボウリング大会、ゴルフコンペを開催、旅行同好会では会員、家族、従業員も参加したバス旅行を企画して親睦交流を深めて来ました。また、横山先生を中心とした、メディカルサロン合唱団には、会員の他、一般市民も参加して活動して来ました。

MSN発刊3年目頃から若手の編集委員が加わって、充実した誌面作りが出来るようになり、医師会の節目には、その都度、記念誌を編集し、七尾市医師会百年誌も刊行して来ました。

平成2年7月創刊の本誌は、本号で第80号となり、発刊32周年を迎えました。

本誌は、現在、年1回発行になりましたが、永遠に続けられますよう願って止みません。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

私は85際になる迄は、健康状態はすこぶる良好で、特養『のとじま悠々ホーム』の裏手の低地に造園した「悠々なぎさ公園」の海岸に、令和元年8月、コンクリート栈橋を増設して、凧の日には、新たに購入した8人乗りのプレジャーボート「令和ゆうゆう丸」を操縦して、七尾湾クルーズを楽しんでいます。



また、6年程前に地元の業者から、閨地区の道路沿いの、1万坪の山林の赤土を採集したいとの要請があり、採集後の丘陵地を5年計画で整備してきました。

まず、その一角に猪対策の金網を張って、10種50本の果樹を植えて果樹園とし、中央の通り抜け出来る通路の両側に、5年もののソメイヨシノを植えて、桜並木を整備。その後方周囲に、梅、紅葉、竹や柿を植えて、「悠々のとじま公園」も完成間近になりました。

整備作業は、グループの和泉会と石龍会の現、元職員有志に応援して貰い、植樹地は赤土で硬く、手掘りは無理で、私が小型ユンボを操作して、穴掘り、埋め戻しをしました。

さらに能登島ゴルフに隣接した70mの高台に、延長200mの金網を巡らせて、松茸山の整備と忙しい日々を送ってきました。

ところが、昨年4月、PET検査で食道癌 (A1bNOM0) が見つかりましたが、幸いなことに、転移が無かったので、入院抗癌剤点滴をしました。しかし、10月に心房細動発作で再入院となり、本年1月5日、退院しました。

と言う事で、令和3年は病魔対応に追われた年になってしまいました。

私はこの4月で、満86歳になります。

お陰様で、体調が大分回復しましたので、そろそろ、作業とゴルフを再開する予定です。

「フレイルドッグ」の取り組み

恵寿総合病院 副院長 川北慎一郎

2021年度恵寿総合病院の方針、目標の1つとして予防医療への新たな取り組みが挙げられた。またコロナ禍で、2020年から行政主導で開始されるはずだったフレイル検診がほとんど実施されないなか高齢者のフレイル増加の懸念もあり、リハビリ医療の専門医として「恵寿フレイル対策チーム」を立ち上げ、新たな検診や介護予防教室の開始を目指すことになった。チームとして3名のDRを含む10職種（医師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、公認心理師、管理栄養士、薬剤師、社会福祉士、保健師、健康運動指導士）と事務担当者の14人を選抜し、2021年4月から毎月勉強会を開催し10月に「フレイルドッグ」開始にこぎつけた。



「恵寿フレイルドッグ」は検診と介護予防教室を組み合わせた日本初のドッグである。65歳以上の介護保険利用がない人（支援1、2は可）を対象とし、健康寿命を延ばすことを目標としている。1回2時間半のプログラムでは、事前アンケートの内容を確認したうえでフレイル検診、フレイル予防教室を実施する。検診内容は運動機能として5m歩行テスト、開眼片足立テスト、5回立ち座りテスト、握力を測定する。栄養状態としてMNA-SF評価を行う。また水飲みテストや反復唾液嚥下テストなどで嚥下機能を評価する。心の健康状態についてはGDS、HDS-R、MoCA-Jを用いてうつ傾向や認知機能を調べる。続いて社会とのかかわりの減少がないかをFAIを用いチェックし、最後に投薬中薬剤の飲み合わせやポリファーマシーがないかを確認する。これらの検査は各専門職種が分担して約1時間で実施し、確立された値にのっとり正常・異常・境界を判定する。小休憩後引き続き、検査で異常値が見られた場合には、個別指導や物忘れ外来、嚥下外来、家庭医療科、歯科などの2次受診案内・予約、高齢者サロンの

紹介などを行う。その後フレイル予防教室を約1時間開催する。フレイル予防教室はオリジナルの「フレイル対策ブック」を使用し、栄養師はフレイル予防につながる食事の紹介、薬剤師は薬を服用するときの注意点、作業療法士や社会福祉士は社会活動の重要性や情報提供を行い、最後に健康運動指導士による体操を体験してもらう。すべての検査や指導は密にならないよう感染対策を十分とって施行される。



1回に参加できる人数は4人までとなっており、現在までにこのフレイルドッグに12名が受診された。ドッグ後のアンケート結果より、充実した多職種によるドッグ内容には満足度が高いことがうかがえた。また検査結果としては、開眼片足立ち、MoCA-J、FAIなどで異常値を示す方が多く、数名2次受診もされた。またアンケートから検診と予防教室が1回では長いとの意見もあったので、今後は検診のみのコースも設け受診しやすくしたり、数回運動を継続したいという希望者に答えるよう、4回1セットの通所型運動指導オプションも用意してゆく予定である。フレイル検診、フレイルドッグは完全予約制で金曜日の午後健康管理センターで行っているため、内容の確認や申し込みは恵寿健康管理センターへ直接連絡をお願いします。

当院における 新型コロナウイルスの検査



公立能登総合病院 臨床検査部
臨床検査副技師長 森田絹代

新型コロナウイルス感染症（COVID19）とは、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）がヒトに感染することによって発症する気道感染症です。2019年12月頃に中国で初めて発生が確認されました。その後、感染者は爆発的に増え、世界的な流行となりました。

症状はインフルエンザや風邪によく似ているため、診断には病原体である新型コロナウイルスの検出が必要です。当初は保健所を経由して検査が行われていましたが、感染が拡がるにしたがって検査件数が増加し、各医療機関でも検査ができるような体制づくりが求められるようになりました。それを受けて、当院では2020年11月にTRCReady®-80が臨床検査部に導入されました。翌2021年1月には救急外来にID NOWが1台、9月にはもう1台が導入されました。

新型コロナウイルスの検出方法は大きく分けて2つあります。ウイルスに特異的なたんぱく質を検出する抗原検査と、ウイルスの遺伝子（核酸）を増やして（増幅）検出する、核酸増幅検査です。いわゆるPCR検査は核酸増幅検査のひとつです。

簡易キットの抗原定性検査は、特殊な装置を必要とせずどこでも短時間で実施可能なことが最大のメリットです。しかし、その感度が低いためスクリーニングには使えず、有症状者であっても発症から9日以内でなければ確定診断はできません。また、偽陽性の報告もあり、注意が必要です。

核酸増幅検査は専用の機器が必要で検査時間が長くなりますが、感度は高く信頼性が高いと言えます。当院が導入したTRCReady®-80、ID NOWはともに核酸増幅検査装置です。TRCReady®-80は結果が出るまでに40分ほどかかりますが、一度に多くの検体を測定できます。一方、ID NOWは1件ずつの測定ですが15分ほどで結果がでます。院内で、それぞれの特性を活かした運用を行っています。

TRCReady®-80は臨床検査部に設置されました。設置にあたり、まずは狭い検査室内で既存の装置を移動するなどして場所を確保しました。さらには安全キャビネットが老朽化していたため、新しくしていただきました。検体にはコロナウイルスが含まれているかもしれません。その検体処理をする安全キャビネット周辺や我々が个人防护具の着脱をするための空間は汚染区域とし、他の作業をする場所とのゾーニングを行いました。また、个人防护具の取り扱いについては感染管理認定看護師から細かく指導を受けるなどの準備をしました。

検体の処理には少なからず慣れが必要です。自身が感染しないように、周りを汚染しないように注意を払いつつ、検査結果の精度を保たなければなりません。誰でも簡単に実施できるものではなく、当院ではまず担当者2名で運用を始めました。当初のコロナウイルスは感染経路を含めて未知の部分が多く、その扱いは恐怖が伴いました。感染管理認定看護師に教わったことをひとつひとつ忠実に実行し、自身の身を守ることに必死だったと記憶しています。また、流行のピーク時には連休も週末の休みもなく、2名が交代で検査をしていたこともありました。現在は3名となっています。

ID NOW 2台は救急外来に設置され、救急車で運ばれてきた方などに対してその場で検査をしています。院内に持ち込ませないための砦です。これまでに無症状でありながらも陽性だった方もおり、迅速な検査の必要性を実感しています。

核酸増幅検査装置の導入前、検査はすべて保健所に依頼していたため、結果がでるまでに数日かかることもありました。しかし、導入後は院内で検査ができ、診断までにかかる時間が劇的に短くなりました。感染の有無を迅速に診断することは感染対策において欠かせないものです。短時間で結果が出せるようになったことは、院内だけでなく地域における感染対策にも大きく貢献できたと考えています。



これだけは言わせて！ — ⑫

社会医療法人財団董仙会理事長 神野正博

かかりつけ医と主治医



「かかりつけ医」「かかりつけ医機能」から、さらには「かかりつけの医師」など、厚生労働省が発する、あるいは医療関係団体が発する言葉が飛び交う。そもそも「かかりつけ」とは何を指しどんな機能なのか、患者と医療者でその意味の解釈と機能は同じかなど、その立場によって同床異夢な言葉のように思う。

そもそも、ここへ来てこの「かかりつけ」がクローズアップされてきた背景には、昨年5月の医療法改正がある。ここで、医師の働き方改革や新興感染症を5疾病6事業の6事業目として医療計画に載せることなどと共に、新たに「外来医療機能の明確化・連携」という視点で、「医療資源を重点的に活用する外来等について報告を求める外来機能報告制度の創設」という文脈が示され、これが「紹介受診重点医療機関」として医療法上でも、さらに今年の4月からの診療報酬改定上でも規定された。

紹介受診重点医療機関は、○医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来（悪性腫瘍手術の前後の外来 など）、○高額等の医療機器・設備を必要とする外来（外来化学療法、外来放射線治療 など）、○特定の領域に特化した機能を有する外来（紹介患者に対する外来 など）などに加え、紹介率、逆紹介率などを考慮されて指定する。この外来へ紹介状なく受診するときには定額を患者に負担させる。病院の外来患者の待ち時間の短縮や勤務医の外来負担の軽減を効果として国は挙げる。

ここで、必然的に紹介受診重点医療機関ではない外来医療機能こそが「かかりつけ医」「かかりつけ医機能を担う医療機関」ということになるわけだろう。

この外来医療機能の分化の方向性を、先々の医療費支払い体系にまで先読みすると、高額な外来治療を担う紹介受診重点医療機関はこれまで通りの出来高制、そうではない「かかりつけ」は包括払い（人頭払い）ということになると読まざるを得ない。

そこで堂々めぐりとなる「かかりつけ」とはということになる。2013年8月8日、日本医師会・四病院団体協議会は合同提言を出し、「かかりつけ医」「かかりつけ医機能」を定義した。この時の策定部会に、横倉義武日本医師会長の下、四病院団体協議会側の委員として筆者も参画した。

「かかりつけ医」とは（定義）

なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師。

「かかりつけ医機能」とは

•かかりつけ医は、日常行う診療においては、患者の生活背景を把握し、適切な診療及び保健指導

を行い、自己の専門性を超えて診療や指導を行えない場合には、地域の医師、医療機関等と協力して解決策を提供する。

•かかりつけ医は、自己の診療時間外も患者にとって最善の医療が継続されるよう、地域の医師、医療機関等と必要な情報を共有し、お互いに協力して休日や夜間も患者に対応できる体制を構築する。

（中略）

•患者や家族に対して、医療に関する適切かつわかりやすい情報の提供を行う。

と「休日、夜間も患者に対応」など踏み込んだ文言に、日本医師会はこのことを書いても大丈夫かという病院団体側としての心配もあったが、医師会長のリーダーシップで公開され、これ以降の厚生労働省の資料においても、これが定義として示されている。

そして、この4月27日、今度は日本医師会単独の考え方として、中川俊男会長より「国民の信頼に応えるかかりつけ医として」なる文章が発出された。

「かかりつけ医」とは、患者さんが医師を表現する言葉です。「かかりつけ医」は患者さんの自由な意思によって選択されます。どの医師が「かかりつけ医」かは、患者さんによってさまざまです。

で始まり、「かかりつけ医」の努め、地域社会におけるかかりつけ医機能、地域の方々に「かかりつけ医」をもっていただくためにから成り立っている。

これは、先の定義と異なり、患者が「かかりつけ医」だと思えば、大病院の専門医でも大学病院の教授でもかかりつけであり、外来機能の分化という国の方針に真っ向から対峙するものと言える。

ここで、もう一つ主治医という言葉がある。まさに、治療を担当する医師だ。耳の痛みを治療する耳鼻科医は主治医となるがかかりつけ医になり得ないのか？腰痛を治療する整形外科医は？糖尿病を治療する内科医は？

かかりつけ医はある時には主治医であるものの、ある時には主治医にはなり得ない。ならば、「なんでも相談」というコンサルテーション機能が「かかりつけ」ではないか。この機能に、診療報酬をいかにつけるか。相談料なのか、それとも相談と言っても医師は取得した情報から臨床推論を駆使して病名を推察することを診断とすれば、初診・再診料の範囲なのか。それとも、やはり人頭払いなのだろうか。論点は、やはり医療費の話になりそうである。

ななお紫蘭の会



ななお紫蘭の会 会長
円山病院 院長 円山寛人



令和3年度 七尾市在宅医療介護連携推進事業・ ななお紫蘭の会活動報告

1、認知症部会

内 容：認知症についての早期の相談体制の充実や相談窓口の周知について検討した。ななお認知症ケアパスの内容を改訂した。

第1回目：令和3年 9月 3日(金)
第2回目：令和3年11月18日(木)
※ほっとけんステーションの実績
医療機関への受診勧奨：43件、
地域包括支援センターを紹介：17件
地域包括支援センターへ連絡：8件



2、まいノート作成部会

内 容：もしものときのために自分が望む医療やケアについて事前に考えご家族と話し合いを行う人生会議を推進していくための媒体とその方法等の検討をした。

第1回目：令和3年 9月10日(金)
第2回目：令和3年10月18日(月)



3、入退院支援ルールブック研修会の開催

日 時：令和3年10月1日(金) 16時～17時
開催方法：Zoomでのオンライン形式
参加者：医療機関より22名、居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護より36名 合計58名の参加

内 容：自己紹介、在宅医療・介護連携のための相談窓口やコーディネーターの紹介、入退院支援ルールブックの紹介

4、在宅医療介護連携研修会 (大塚製薬工場主催、ななお紫蘭の会共催)

日 時：令和3年11月5日(金) 19時30分から20時30分
講 師：小松市医師会会長 村井 裕先生(オンライン)
テーマ：フレイルに必要なチームづくり
～ほっとけんステーションの過去未来～
参加者：医療介護福祉関係者 51名

5、認知症バーチャルリアリティ(VR) 研修会 (能登認知症疾患医療センター主催、ななお紫蘭の会共催)

日 時：令和3年11月27日(土) 9時～12時
28日(日) 10時～15時
参加者：一般市民、医療介護福祉関係者
両日合わせて 77名

6、石川県在宅医療事業成果発表会

日 時：令和4年3月15日(火) 19時～
(オンラインでの発表)

7、人生会議についての研修会「先進地から学ぶ人生会議」

日 時：令和4年3月18日(金) 19時～
講 師：浜松医科大学 井上 真智子先生
浜松市役所高齢者福祉課 鈴木 勝己課長
参加者：医療介護福祉関係者 52名

あじさい会

(中能登町在宅医療介護連携を考える会)



あじさい会 会長
安田医院 院長 安田紀久雄



今年も新型コロナの対応で多忙な日々を過ごしています。しかしそんな中でも「年をとっても、病気になっても、介護が必要になっても、ひとりになっても、中能登町にいたいわいね～」の思いを支える会を目指して、リモートでの勉強会を続けています。

今年度は「人生会議」をテーマに勉強会を重ねました。その中でも、ご主人をご自宅で11年介護し、看取りをされたご家族を講師に招き、勉強会を開催しました。人生会議を「誰と」「どんなタイミングで」「どんな内容を」「どう切り出した」のか、実際のやり取りをお話いただきました。「やりきった感がある。ひとりではできなかった。たくさんの支えがあったからできた。だから頑張れた。」ご家族が勉強会で話してくださった言葉です。私は、人生会議を何度も重ねながら、最期を見守る決心をし、夫婦として過ごした30年以上の深い物語に思いをはせながら、主治医として伴走できていたか振り返りました。

今回の勉強会は、一般公開講座として広く周知したため、専門職だけでなく一般の方も含め、70名がZoomで参加してくださいました。これも地域とのつながりを大切に行っているあじさい会として良かったなと思っています。

参加者の方々からは「早い時期からの人生会議の大切さが分かった」「改まってする会議じゃなくて日々の関わり

りの中で意識的に関わることができたらいいと思った」など、たくさんの感想をいただき、人生会議をやってみたいなと思える人が増えてくれたのではないかと感じました。

そこであじさい会では、専門職のための「ハンドブック」を作成しました。ぜひぜひ手に取って見ていただき、みんなで実践していけたらいいなと思います。

「在宅生活を支えるあじさい会」であるために、3密を避けつつ、連携を密にしながら、ゆっくりでも地道に活動を続けていきたいと思っています。



七尾看護専門学校から

七 看 だ よ り

令和4年度入学式

希望を胸に、新たな一歩

令和4年4月7日 入学式が行われました。
 新入生 33 名が、これから始まる学校生活への期待に心を弾ませました。



☆学校長式辞

友と語らい、学び、競い、そして悩み、3年後には必ず友と看護師になりましょう。



☆入学生代表宣誓

自分の理想の看護師像に少しでも近づけるよう、努力していくことを誓います。



☆歓迎の挨拶

困難にぶつかったときは、先生方や私たち在校生がサポートします。共に成長していきましょう。

職員紹介



令和3年度行事



11月25日

◇戴帽式

20期生が病院実習を前に決意を新たにしました。



3月4日

◇卒業証書授与式

1.2年生は各教室からZoomで参加し、卒業生の門出を祝いました。



令和5年度
看護学生募集

オープンキャンパス
2022



高校1・2・3年生 社会人の方

7/30(土)・31(日)

七尾看護専門学校
 TEL：0767-52-9988
 FAX：0767-53-6548

☆校内見学・個別相談

☆看護技術体験

☆在校生との座談会



本校公式
SNS
更新中

Instagram



twitter



facebook



医 師 会 の 窓

〔行事〕	令和3年5月～令和4年4月
総務会	令和3年5月10日・25日、6月7日・14日・23日、7月19日、9月6日、10月11日、11月8日、12月13日、令和4年1月11日、2月14日、3月7日、4月11日
役員会	令和3年5月17日・31日、6月21日、7月26日、9月13日、10月18日、11月16日、12月20日、令和4年1月17日、2月21日、3月14日、3月23日、4月18日

令和3年	
5月14日	社内監査
31日	第8回定時総会
6月9日	MSN 編集担当者会議
28日	64歳以下の新型コロナワクチン接種予約等に関する意見交換会
8月6日	令和3年度第1回能登中部小児休日診療協議会
9月29日	令和3年度救急医療講習会
10月14日	石川県医師会との懇談会
24日	秋の三師会ゴルフコンペ (優勝：室木俊美／室木歯科口腔外科医院)
26日	七尾看護専門学校運営会議
11月25日	七尾看護専門学校戴帽式
令和4年	
1月26日	令和3年度緊急時医療研修会
2月8日	MSN 編集会議
3月4日	七尾看護専門学校卒業式
23日	令和3年度臨時総会
4月7日	七尾看護専門学校入学式
4月21日	第18回スポーツ医科学研究会

〔医師の異動〕 令和3年4月～令和4年3月 (順不同、敬称略)	
入会：	安部龍大・北山怜奈 (以上、公立能登総合病院)、岡田圭一郎・河合慈・早川希・桐山正人・新庄祐介・真智涼介・本江真人・池田篤平・松田雄斗・清水一秀・滝川達也・中条裕一・勝山結慧・加藤彰悟・林瑞樹・宮澤攻・藤井愛・村宏樹 (以上、恵寿総合病院)、根上昌子 (岡田胃腸科外科クリニック、R4.4.1 ねがみみらいクリニック開業)
退会：	寺林博之・宮竹敦彦・松田雄斗・本江真人・野村俊一・尾山量子・坂田祐一・貫井友貴・村宏樹・宝達明彦・寺田和始・新庄祐介・佐藤就厚・真智涼介・河合慈・早川希・西村健太・磯野真子・佐藤美並・春田侑亮・宮澤攻 (以上、恵寿総合病院)、安部龍大・北山怜奈 (以上、公立能登総合病院)、三林蓉子 (6/30 閉院、R4.2/12 逝去)、丸山晃弘 (七尾松原病院)、横山文男 (R4.1/10 逝去) 石坂太志 (介護老人保健施設寿老園)
異動：	木元一仁 (恵寿総合病院→国立病院機構七尾病院)、岡田成 (岡田胃腸科外科クリニック、R4.3/31 閉院)



新副会長として

七尾市医師会 副会長 鎌田徹



恵寿総合病院に消化器外科医として赴任して今年で30年経ちました。7年前からは乳腺外科医として毎日診療を続けております。この30年間、七尾市医師会の先生方とは主にカンファレンスや研究会、患者さんの紹介などの症例を通じてお世話になってきました。一方で長い間、医師会活動や地域医療におけるマネージメント的な業務は勤務医という立場を言い訳にして、あまり携わってきませんでした。

2019年4月に恵寿総合病院の病院長になったことをきっかけに七尾市医師会の理事になり、コロナがまん延した2020年4月からは総務会メンバーとなり、医師会活動とはどういうものか少しずつ見聞させていただきました。七尾市医師会が県医師会・

県市町村・医療機関・教育機関・保健所・地域住民などの会議や協議を通じて地域医療に貢献していることを改めて強く感じております。特に3年前からコロナ関連の業務負担は大変なものがありました。各医療機関はそれぞれの感染防止対応、コロナ陽性者の対応、自院でのワクチン接種や集団接種出務などがあり、さらにWebを利用しながら夜遅くまで各医療機関と市町との調整など多岐多様な業務に追われ、とても学術的な活動ができる状態ではありませんでした。特に奥村元会長の大変さ・重責を傍から見てきました。

これからもコロナ対応・ワクチン接種などのコロナ関連の大変な業務が続くと思いますが、医師会会員の皆様と共に七尾・中能登の地域医療の充実に少しでも貢献できればと思っています。どうか皆様にはご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

短 信

- ◆令和3年度石川県医師会医療功労者表彰
徳楽 正人 (公立能登総合病院)
- ◆令和3年度石川県知事表彰 (健康増進事業)
吉岡 哲也 (恵寿ローレルクリニック)
- ◆令和3年度厚生労働大臣表彰 (国保審査委員)
藤村 政樹 (国立病院機構七尾病院)
- ◆令和3年度七尾市・中能登町在宅当番医制事業報告
 - 休日当番医実施日数：72日
 - 来院患者数
 - 七尾市・中能登町 (一般) : 489人
 - 七尾市・中能登町 (広域小児) : 575人

編 集 後 記

安田紀久雄先生が新七尾市医師会長に就任されました。コロナ感染症のみならず、想定外の出来事の多い時代ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症にどう対応したかを振り返って、前医師会長奥村義治先生はじめ各部署から報告を頂きました。医師会の先生方のみならず、担当者の方々が一丸となって協力し合い、誠心誠意尽して下さったことに感謝します。2022年7月上旬再び感染者は増加傾向を示し、第4回目ワクチン接種も始まりました。これまで以上に皆で力を合わせましょう。

佐原吉博先生はMSN創刊に力を尽くされ、その当時のご苦勞をまとめられています。歴史ある本誌が発展するように皆で協力していきたいと思いました。

年一回の発行となり、盛り沢山な会報となっています。皆様、どうぞお読み下さい。

(山本ひろみ)

(発行責任者) 安田紀久雄
メディカルサロンななお編集部
(編集委員) 五十音順
上木 修・円山 寛人・奥村 義治・鍛冶 武和
鎌田 徹・北村 勝・木元 一仁・佐原 博之
高澤 雅至・田中 文夫・中村耕一郎・藤田 晋宏
山本ひろみ・神前昭太郎

発行 七尾市医師会
〒926-0854 七尾市なぎの浦156
TEL (0767) 52-2297 FAX (0767) 53-6548

【会員訃報】

元 横山皮膚科医院／横山文男先生 (七尾市御祓町) が令和4年1月10日にご逝去されました。

元 みばやし眼科／三林蓉子先生 (七尾市国分町) が令和4年2月12日にご逝去されました。

山崎医院／山崎雅都先生 (七尾市石崎町) が令和4年6月24日にご逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。